

◆鶴雅グループにてインターンシップを実施しました

女子短期大学部は、学生に就業体験を通じて自分自身のキャリアデザインを考える機会としてもらうため、インターンシップを実施しています。

その一つとして、8月18日～24日までの日程であかん湖鶴雅リゾートスパ鶴雅ウイングスにおいて観光業に関するインターンシップを実施し、キャリアデザイン学科1年生5人が参加しました。

観光ビジネス・地域づくりの実際の現場において、鶴雅グループ代表取締役社長の大西雅之氏をはじめ、女将や北海道観光局の職員による講義で「観光産業」の基礎的な知識を学び、客室清掃やレストランでの実習、お客様のお迎えなどのサービス実務を体験しました。実習の中で、着物の着付けやテーブルマナーも身に付けました。

また、阿寒湖仮装盆踊り大会や千本たいまつ行進などの地域のイベントにも積極的に参加するなど充実した7日間となりました。

なお、今後は航空業、金融業に関するインターンシップの実施を予定しています。



▲阿寒湖仮装盆踊り大会で「奨励賞」を受賞
◀おもてなしの心を学んだ参加学生たちと小山女将(写真右)

【インターンシップ研修プログラム】

研修日	主な研修内容
8/18(日)	札幌⇒阿寒湖(移動) オリエンテーション、「千本たいまつ行進」参加
8/19(月)	レストラン実習(セッティング・下膳作業) 釧路湿原塾
8/20(火)	「鶴雅観光人材養成講座」北海道の観光と現状、アイヌ文化 「阿寒湖仮装盆踊り」参加
8/21(水)	大西社長による講義「宿づくり・まちづくり」 着物の着付け、ロビーにてお客様対応(お迎えなど)
8/22(木)	客室清掃実習(ベッドメイキング・清掃グランドサービス) お客様のご案内
8/23(金)	総料理長によるテーブルマナー お客様への対応(パントリー、宴会場セット)
8/24(土)	研修の成果発表 阿寒湖⇒札幌(移動)

＝参加学生の感想＝

- 従業員の皆さんのプロフェッショナルな仕事ぶりに感動しました。特に笑顔が素敵だったので、見習いたいと思います。(山下華絵さん)
- 小山女将に『おもてなしの心』を教えていただき、ますます接客サービスに興味を持ちました。(斎藤莉奈さん)
- 実際にロビーや食事会場で接客し、お客様への言葉遣いや伝えることの難しさ、細かな気遣いの大切さを痛感しました。(井上友里さん)
- 先輩方や仲間と協力して仕事ができる楽しさ、大切さを知ることができました。(佐藤世理奈さん)
- 実習で学んだことを、今後の学生生活やアルバイトでも活用したいと思いました。(小笠原朋美さん)

◆アメリカでの海外研修を体験

女子短期大学部学生4人が外国語学部の学生とともに、夏期休暇期間中の8月11日から9月2日までの23日間、アメリカのボストン、ニューヨークでの研修プログラムに参加しました。

研修では、ボストンの語学学校「English Language Centre BOSTON」で英語の集中学修を行い、「聞く、話す」といった実践的英語力と理解力、表現力の向上をめざしたほか、現地でのホームステイ生活を通してアメリカ社会、文化への理解を深めました。

今回の研修に参加したキャリアデザイン学科1年の原田由佳さんは、「文化や習慣が異なる環境でチャレンジしてみようと思い参加しました。語学学校で世界中から集まった様々な国の人たちと出会い、積極的にコミュニケーションをとるよう心がけました。この貴重な体験を今後の学生生活や進路選択に生かしていきたいです」と感想を述べ、英語学修に更なる意欲をみせていました。



女子短期大学部では、ほかにオリジナルの海外研修プログラムとして、春期休暇期間に実施する中国研修を準備しています。

◆「こどもパートナー講座」でこどもへの理解を深める

こどもの成長を取り巻く環境が大きく変わり、親や学校の教員の力だけではこどものサポートが難しい時代を迎え、地域においてもこどもを支援する人材が必要となってきています。

一般社団法人教育人材認証協会が認証する「こどもパートナー」は、こどもに関わり合う力を身に付ける研修プログラムを通して、地域や学校、家庭でのこどもたちへの支援者を育成しています。本学では、平成24年度に北海道で第1号の同協会の会員校となり、「こどもパートナー講座」を実施しています。

今年度の「こどもパートナー講座」が9月21日(土)に開講され、キャリアデザイン学科の1年生



が受講しました。4時間にわたる講座でしたが、こどもへの理解や幅広い場面に対応したこどもとの接し方などを学び、うち9人の学生が「こどもパートナー認証」を取得しました。

受講した学生たちは、「家庭や学校だけではなく地域との関わりがとても大切だということがわかった」、「こどもとの信頼関係を築くことの重要性を知った。将来の子育ての参考にしたいと思った」などと感想を述べ、今後は学内外でのこどもサポート活動に参加し、実地体験を積んでいきます。